

京都府の地震活動

令和3年（2021年）6月

第34巻第6号

京都地方気象台

目次

震央分布図、概況	・・・1
震央分布図、断面図	・・・2
【地震一口メモ】令和3年度から京都府内でも津波フラッグが導入されます	・・・3

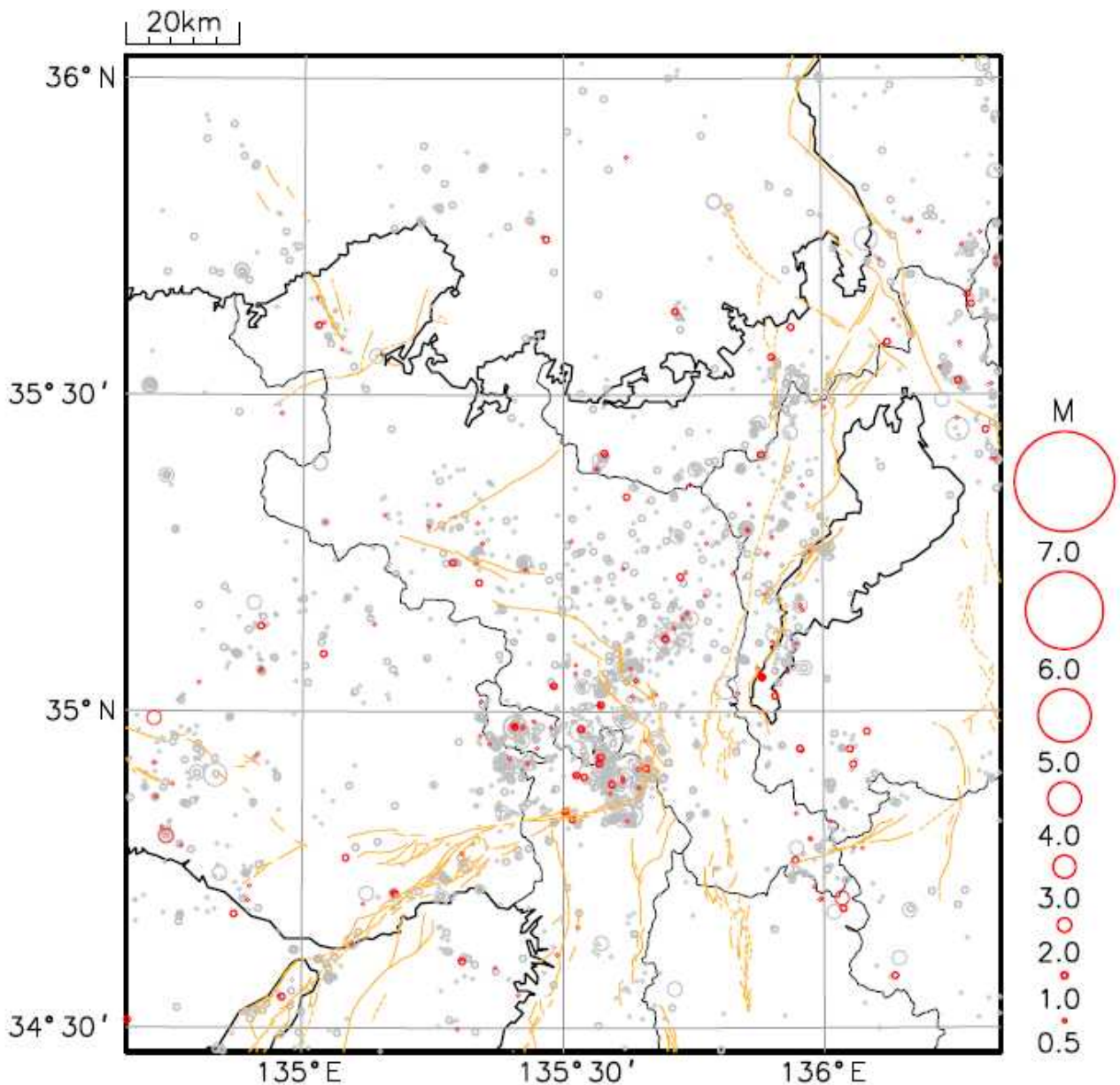
『京都府の地震活動』は、京都府及びその周辺の地震活動状況を解説するとともに、地震防災知識の普及に資するため、毎月刊行しています。

本誌に掲載した震源要素、震度データは、再調査された後、修正されることがあります。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

震度データは、気象庁の震度計の観測データに併せて地方公共団体及び国立研究開発法人防災科学技術研究所から提供されたものを掲載しています。

震央分布図（マグニチュード0.5以上、深さ0～80km）



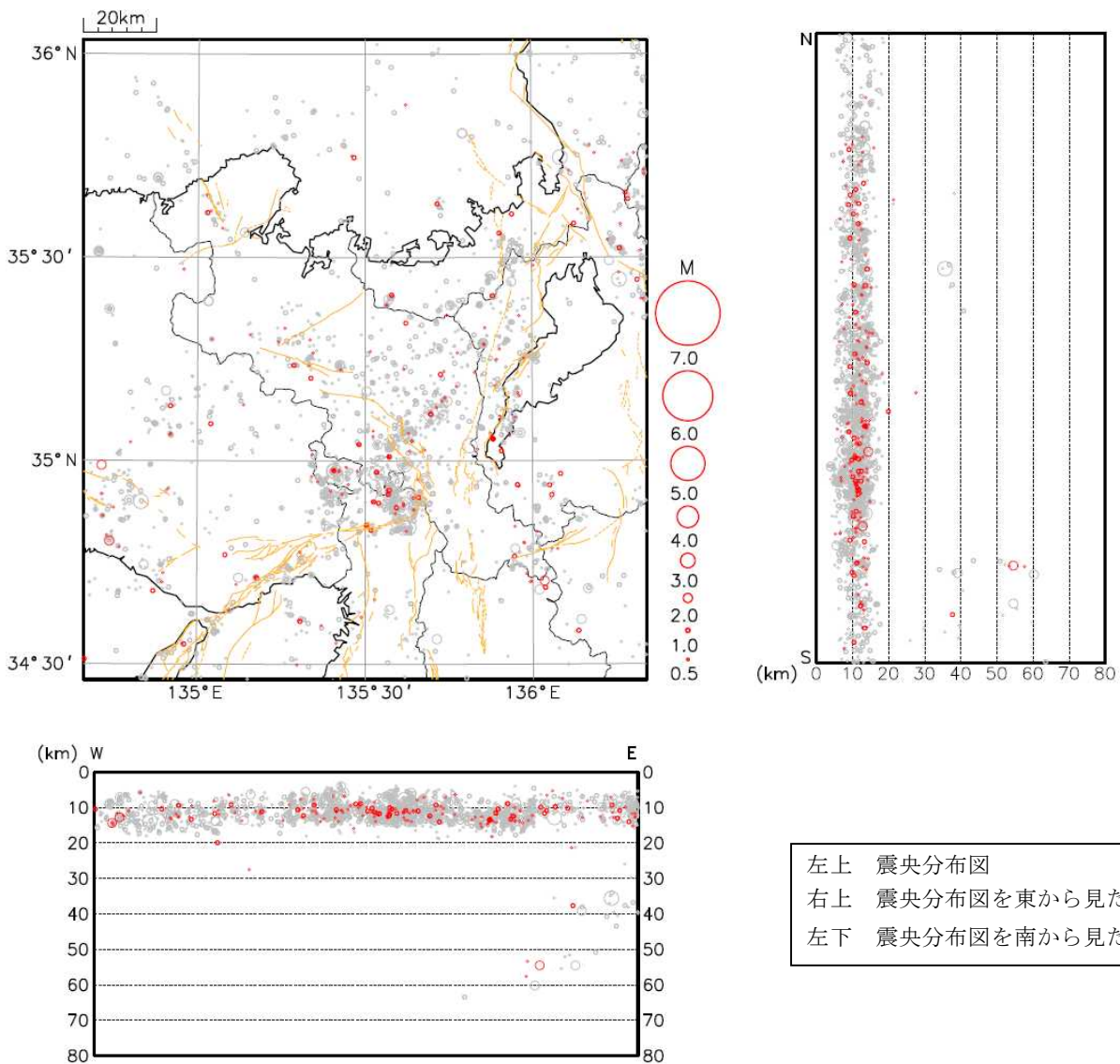
- ・(2020年7月1日～2021年6月30日、深さ0～80km、 $M \geq 0.5$)
- ・2021年6月の地震を赤く表示（総数191）
- ・震源を表す「○」の記号は、マグニチュード（M）の大きさに対応したサイズで表記。
- ・震度1以上を観測した地震には、日時、深さ、マグニチュード（M）、最大震度及び京都府内で震度を観測した地震については京都府内最大震度を付記。
- ・主要な活断層を橙色で表示

概況

6月中、震央分布図内で観測したマグニチュード2.0以上の地震は3回、震度1以上の揺れを観測した地震はありませんでした（5月はそれぞれ6回、2回）。

6月中、京都府内で有感地震はありませんでした。

震央分布図、断面図（マグニチュード0.5以上、深さ0～80km）



左上 震央分布図
 右上 震央分布図を東から見た断面図
 左下 震央分布図を南から見た断面図

- ・ (2020年7月1日～2021年6月30日、深さ0～80km、 $M \geq 0.5$)
- ・ 2021年6月の地震を赤く表示（総数191）
- ・ 震源を表す「○」の記号は、マグニチュード（M）の大きさに対応したサイズで表記。
- ・ 震度1以上を観測した地震には、日時、マグニチュード（M）、最大震度を付記。
- ・ 主要な活断層を橙色で表示

深さ数 km～約 20km に分布している地震は陸側のプレート内で発生した地震（地殻内地震）、深さ約 30km～約 60km に分布している地震は、沈み込むフィリピン海プレート内の地震です。

【地震一口メモ】

令和3年度から京都府内でも津波フラッグが導入されます

気象庁は、令和2年度（昨年度）から津波フラッグの普及、導入に向けた取り組みをすすめています。津波を伴った大きな地震が発生し、気象庁から津波警報、注意報が発表された場合、海水浴場等では、放送設備を使い避難を呼びかけますが、遊泳している方や聴覚障害者の方には伝わらない可能性があります。そこで、津波フラッグという旗を使い、視覚的にも避難を呼びかけます。なお、詳細については、気象庁HPをご覧ください。

さて、令和3年度（今年度）、京都府内の一部海水浴場で津波フラッグが導入していただけることになりました。今夏、みなさんが出かける海水浴場でも津波フラッグが導入されているかもしれません。津波フラッグは下記ポスターやリーフレットにあるように赤と白の格子模様の旗です。この旗を振っているのを見かけられたら、直ちに海から離れて高台などへ避難してください。

また、津波フラッグが見えなくても、海岸付近で揺れを感じた場合には同様に高台などへまず避難してください※。

※津波発生時は、ライフセーバーや監視員の安全が確保された上で津波フラッグを運用しますので、揺れを感じたらすぐ避難することが大切です。

気象庁HP「津波フラッグ」

https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/tsunami_bosai/tsunami_bosai_p2.html



津波フラッグのポスター



津波フラッグのリーフレット

(参考) ポスターやリーフレットの大きな画像は、上記の気象庁HP「津波フラッグ」内にあります。